

1. 本園の教育目標

キリスト教的人間観に基づき、乳幼児の個性を尊重し、適当な環境を与えて、心身共に健康で調和の取れた発達を助長する。

2. 2019年度、重点的に取り組んだ目標・計画

昨年度からの課題を踏まえ、教職員間の連携と、保育を必要とする子どもたちへの十分な配慮に力を注ぐ。環境整備においては畑を確保し、本物に出会うことを心がける。

ことばに満たされて～ひびきあう～

好きなことを見つけて集中して取り組み、最後までやりとげる子ども
自信をもって過ごす子ども
友だちのことを大切にできる子ども

3. 評価目標の達成及び取組状況

課 題	具体的な取り組み方法
教職員のスキルアップ	<ul style="list-style-type: none"> ・専門リーダーとしての役割を果たし、前向きに取り組む職員と、内容が十分に理解できずに戸惑う職員との差が見られた。 ・教育実践リーダーを配置し、発達の連続性を職員会議の中での一項目として一年間を通して学ぶ機会を設けた。 ・各学年に宗教担当者を一人配置することで、子どもたちへの宗教教育は行き届いた。
職員間の連携	<ul style="list-style-type: none"> ・学年リーダーを配置し定期的に話し合いを行い、他学年との連携を強めた。 ・職員会議などでは、聖書の分かち合いなどを行い、仕事のスキルだけでなく心が通い合えるようにした。 ・朝礼・終礼ノートの回覧を徹底し。情報の共有を心掛けた。
安全確保	<ul style="list-style-type: none"> ・1.2歳児の園庭の整備を行った。(チップ工事) ・災害の多い一年となったため安全対策リーダーを中心に災害時の避難について見直した。 ・レーザーキッズの導入で、緊急な連絡などを行うことができています。 ・心肺蘇生術の訓練を枚岡消防署の協力を得て職員と行った。
子どもの自立に向けた環境構成	<ul style="list-style-type: none"> ・1歳から就学前の子どもたちの発達の連続性を踏まえたうえで、一人ひとりに合わせた環境設定を職員会議にて毎月、話し合い実践している。 ・子ども主体で、子ども自身が自ら考え、選び、活動できるよう室内・園庭の環境構成について、話し合い実践へとつなげている。 ・長時間保育の子どもたちの部屋は安心して過ごせるよう、ランチルームに畳を引き家庭的な雰囲気の部屋作りを行った。
保護者・地域との連携・情報発信	<ul style="list-style-type: none"> ・年長組の小学校訪問、特別支援児のための特別支援学校や支援学級などへの相談などを通して顔の見える関係持つことができた。 ・子育てサロン・園庭開放への参加者が増えた。 ・HPの更新の回数を増やし、日々の情報が伝達できた。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

今年度は本物と出会わせるということを中心に、畑においては収穫だけではなく種まき、土作りなど積極的に取り組むことができた。隣接する教会の信者さんや地域の方とも畑を通して交流ができています。さらに、本物に出会うという目的で、ピアノや様々な楽器のコンサートを幼稚園のホールで行い、園児だけではなく、保護者、未就園児の親子、地域の方にも楽しんでいただいた。

子どもの自立を育むために、自由時間の大切さを改めて感じ、子どもたちが自分で選択し、集中できる活動を今後も発展させていきたい。

専門リーダーがそれぞれの発信を始めたため、さまざまな視点から保育を見直すことができた一年であった。今後はより一層専門性をもって取り組んでいきたいと思う。

5. 今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取り組み方法
教職員のスキルアップ	<ul style="list-style-type: none"> ・専門リーダーの配置変えを行い、得意な分野において研鑽し、園内においてリーダーシップを発揮していく。 ・学びに向かう力をつけるために子ども自身が選んで活動できるカリキュラムや環境設定についてそれぞれが研究し、実践していく。 ・教職員一人一人が、子ども・保護者・同僚に対して愛の実践を行う。
安全対策	<ul style="list-style-type: none"> ・危機管理マニュアルの見直しを行う ・リスクマネジメントについて教職員全員が日頃から心がける。 ・安全対策リーダーを中心に、さまざまな場面を想定した避難訓練を行う。
子どもが一人で生活できるための環境設定	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもをよく観察し、自分で選び、一人でできるよう環境を整える ・思考の芽生えを促すような、子どもの心に語り掛ける環境を準備する。 ・畑を作り、五感を使って自然の中から学べる環境を準備する。 ・本物の音に出会い、身体で音を感じ楽しめ利用にする。
保護者・地域との連携・情報発信	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年の様々な災害を教訓に教職員全員が近隣の方との声かけ、顔を合わせたお付き合いを心掛ける。 ・地域の方にも参加していただけるコンサートなどを企画する。 ・保護者向けのコンサート、講演会などを企画する。 ・校区の小学校、中学校との連携を深める。 ・老人ホームなど慰問を引き続き行う

● 2020年度、重点的に取り組む目標・計画

教育理念である「愛されることにより愛を覚える」の実践に向けて、子どもたち一人ひとりが自ら選び活動し満足できるよう環境設定を心掛け、教職員は子ども・保護者・同僚に対しての愛の実践に力を入れる。

年主題： ところがみたされる

- ・つながりを大切にする(異年齢・同年齢・地域の方々)
- ・自分と友だちを大切にする子ども

自分自身に肯定感を持つと同時に、友だちや年下のお友だちにやさしい気持ちになれる子どもに成長していきけるよう導いていく。また、子どもたちには、自分を認めてもらうことで自信をつけて、さらに自分の持っている良いところを伸ばしてほしい。

コロナ感染の拡大で、地域との繋がりが難しくなっているが、困難な時こそ、連絡を取り合い地域との繋がりを深めていきたい。

レーザーキッズのネット配信により、コロナ自粛の時も動画配信などを試み、普段の保育の様子もネットを通して、発信できるように工夫していく。

● 2020年度の評価項目

- ◆ 教職員のスキルアップ
- ◆ 安全対策
- ◆ 子どもが一人で生活できるための環境設定
- ◆ 保護者、地域との連携、情報発信

6. 学校関係者の評価

新型コロナウイルスによる感染問題で、本来、園教育の基本である友だちとの集い、先生とのかかわり、ともに遊ぶことなど、スキンシップが土台に行われるものが打ち砕かれるようで危惧しましたが、認定こども園としての総括を行い、次年への目標を掲げ進まれていることは高く評価します。自分の手を使い実際にやってみる、土を耕す、水を撒く、など頭で考えているようにはいかないものですが、それらの体験を通し、様々なことを体にしみこませて覚えることは一生の宝となるでしょう。2020年度も、取り組み目標、計画を達成できるよう望みます。